

緊急時対応マニュアル

〈緊急時とは〉

緊急時とは、サービス提供時に発生した、利用者の病状の急変、生命の危険、災害等が生じる場合をいう。障害児通所支援サービス事業における従事者の場合、発達に特性のある利用者を対象としている業務内容からも緊急を要する事故の発生に備えて、事前にその対応方法及び手順を周知徹底し、適切に対処することが求められる。

急病・けが	救急車を呼ぶ	119番
交通事故	警察を呼ぶ	110番
火事	消防車を呼ぶ	119番
不審者	警察を呼ぶ	110番
所在不明	警察を呼ぶ	110番

急病・事故・怪我

■急病・怪我の対応■	4
具体的な措置	6
嘔吐があった場合の対応	6
下痢があった場合の対応	6
怪我があった場合の対応	6
てんかんが起きた際の対応	7
アレルギーが起きた際の対応	8
心肺蘇生の方法	8
AEDの使用方法	9
■交通事故の対応■	11

■急病・怪我の対応■

【1】事故発生子防のための情報収集

〈1〉利用者の疾患等の情報収集

- ①主治医の診断書等によって、利用者の過去の疾患、現在治療中の疾患等の情報を収集する。
- ②収集した疾患に関する情報を整理する。
- ③サービス提供の際の事前の体温測定等のバイタルチェックによって緊急事態の発生の可能性を予測する。

〈2〉利用者や保護者とのコミュニケーション

- ①モニタリング等で利用者や保護者とコミュニケーションをとり、状態の把握に努める。
- ②利用者や保護者との信頼関係を強化し、情報の発信をしやすい状況を築くことが大切である。
- ③顔色や熱感等の観察による情報も重要である。

【2】緊急時の対応

〈1〉緊急連絡

- ①状態に応じて主治医に連絡又は119番に通報する。
- ②保護者に連絡する。
- ③必要に応じて、他の利用者に状況を説明し落ち着かせる。
- ④事業主・管理者に連絡し、対応を協議する。

〈2〉119番通報

- ①救急車が迅速に到着できるよう、事前に事業所の案内方法を想定しておく。
(目標となる建物造等の確認)
- ②利用者の状態を簡潔明瞭に伝える。
 - ・意識（意識がない・反応がない・呂律が回らない等）
 - ・呼吸（呼吸がない・呼吸が速い・遅い・弱い等）
 - ・脈拍（脈拍がない・脈拍が速い・遅い・弱い等）
 - ・体温（高い・低い）
 - ・吐血、下血（色・量・回数等）
 - ・嘔吐（嘔吐物の色・量・形状等）※状態を記録する。

〈3〉応急処置

医療行為はできないが、状況に応じて可能であれば、次の一般的な処置を行う。怪我に応じて必要な処置を行う。[ケガと応急処置](#)を参照。

- ・口腔内の異物等の確認及び除去
- ・気道の確保
- ・人工呼吸
- ・心臓マッサージ
- ・止血
- ・状況に応じ、近くにAEDがあれば対応

施設名	付近のAED設置場所
-----	------------

放課後等デイサービス カラフル	セブンイレブン 浦安堀江1丁目店 、 南小学校 (校舎・体育館) 、 みなみ認定こども園
日中一時支援事業所 カラフルスクール	第8区 自治会集会所 、 セブンイレブン 浦安猫実5丁目店 、 中央公民館

〈4〉 救急車の誘導と到着後

- ①道路に出て、救急車を誘導する。
- ②利用者の状態を落ち着いて説明する。
- ③状況に詳しい者が救急車に同乗する。

【4】 結果の報告・記録

- ①対応結果について、保護者に報告する。
- ②緊急事態又は事故の発生から対応までの一連の経緯について記録する。
特に事故については、この記録に基づき事故の要因分析や具体的な再発防止策を検討・実践していくことになるので、従業者の記憶の定かな早い段階での確実な事実の確認と記録が求められる。
- ③対応手順に問題点がないか等を検討し、以後の対応をさらに向上させる事例として活用する。

具体的な措置

嘔吐があった場合の対応

- ①嘔吐を発見したら周りの利用者を遠ざけ、速やかに片付けの準備をします
- ②片付けはマスク・手袋を着用し、新聞紙などで嘔吐物の上にかけます
嘔吐物を広げないよう外側から内側に向けて包み込むように取り除きましょう。
- ④嘔吐物を覆った後に、窓を2か所以上開けて換気をします
30分以上は換気した方がいいです。
- ⑤嘔吐物は消毒液を浸したペーパータオルや新聞紙で消毒します
片付けを行ったらしっかり手洗い・消毒、マスクを変えるなど予防をしましょう。
嘔吐物がついた衣服などは袋に入れ密封した状態で持ち帰ってもらいましょう。
- ◎患児は再度嘔吐する可能性があるので全体と別にし袋やバケツを持ってもらいましょう。
また、保護者に連絡の上1人別にして帰宅してもらいましょう。

下痢があった場合の対応

- ①下痢を処理するときもマスク・手袋を着用し、直接触れないようにする
胃腸炎やウイルスの感染を防ぎましょう。
- ②お尻がただれやすいので頻回に清拭し、便の処理後は手洗い・消毒を行う
下痢がついた衣服などは袋に入れ密封した状態で持ち帰ってもらいましょう。
- ◎患児は嘔吐と同様保護者に連絡の上帰宅してもらいましょう。
- ◎1人のときに嘔吐・下痢などがあった際も社内用の携帯で連絡を入れて頂けると助かりますのでよろしくお願ひします。

怪我があった場合の対応

【切り傷・擦り傷など】

- ①ケガの状態を確認して、傷口についた汚れを水でしっかりと洗いましょう
消毒液は傷を治す細胞も死んでしまうので使わないようにしましょう。
- ②出血がある場合にはガーゼで直接傷口を10分程度圧迫して止血しましょう
今は清潔にしたら乾燥させないで治す方法が一般的です。
ガーゼがない場合にはタオルやティッシュ等でも大丈夫です。
- ◎出血が止まりにくい場合には、傷口がある場所を心臓より高い位置にして、安静にしましょう。

【骨折、捻挫、打撲など】

- ①患部が骨折している可能性があるかを確認します
手の場合は握ったり開いたり動かせるかなどの確認をしましょう。
- ②腫れが強くなっていたり、赤くなっているのであれば、氷水や保冷剤で冷やしましょう
- ③利用者が動かしにくそうにしたり、痛みが強い場合には幅木などで固定し医療機関を受診します

※出血で汚れた衣服も密封した状態で持ち帰ってもらいましょう。

【頭部打撲】

- ①頭を打った時は、意識の有無、嘔吐、出血がないかを確認しましょう
とくに嘔吐、出血があった際は危険です。
- ②打撲した場所を確認し腫れがあるか等の症状を把握します。出血がある場合にはガーゼで圧迫して止血しましょう
①の中の症状が繰り返し行われたり意識が混濁している場合、出血が多くある場合には救急車を要請しましょう。

※頭部の打撲の場合は必ず保護者へ連絡を入れ受診しましょう。

◎1人のときに怪我などがあつた際も社内用の携帯で連絡を入れて頂けると助かりますのでよろしくお願ひします。とくに骨折の疑ひなど緊急性が高い場合は電話で即時に連絡をお願いします。

てんかんが起きた際の対応

【介助をする必要の度合い】

- ・意識の曇りの深さと時間
- ・けいれんの度合いと範囲
- ・姿勢の維持、倒れ方のスピード
- ・発作を起こした状況の危険度

◎この4点の要因が多く強ければ危険度が高いです。

【発作中にはしてはいけないこと】

- ・体をゆする
- ・大声を掛ける
- ・叩く
- ・押さえつける

【緊急搬送が必要な発作】

- ・けいれんに関係なく意識の曇る発作が短い間隔で繰り返す
- ・発作と発作の間で意識が回復せずに繰り返す
- ・1回のけいれん発作が5分以上続く

【けいれん発作が起きた際の対応】

①危険な物の場所を遠ざけ、本人が怪我をしないようにする

②衣服の襟を緩めるなど呼吸がとれるようにする

けいれん発作が収まったら体を横に向け呼吸が戻るのを待ち、意識回復するまで寝かせましょう。

◎どの程度けいれん発作が続いているのか時間が大切です。

◎1人だと不安も大きいと思いますが、まずどのような症状が見られているのか、けいれんは回数、持続時間が大切です(緊急搬送の際も聞かれます)のでその把握をお願いします。また、そういった症状が見られた際も即時に社内用の携帯を使用して連絡をお願いします。

【自動症の対応】

自動症...けいれんがなく、意識が曇って周りを歩き回るなど一見目的にかなった動き

①本人に意識はないので無理にその行動は静止せず安全を確保しながら意識回復を待ちましょう

【転倒発作の対応】

通常とは違い身をかばうことが出来ないのが危険です

①転倒発作が繰り返し起きている場合は1人にせず、安全を確保しましょう

アレルギーが起きた際の対応

①何らかのアレルギー症状がある(食物の関与が疑われる)

原因食物を食べた(可能性を含む)

原因食物に触れた(可能性を含む)

日頃からアレルギー反応を起こすものを対象の子から遠ざけておく。

②呼びかけに対して反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

全身症状としてぐったりしていて、意識朦朧、唇や爪が青白いなど。

呼吸器の症状として声がかすれ、犬が吠えるような咳もしくはゼーゼーする呼吸など。

消化器の症状として我慢できない程の持続する強い腹痛、繰り返し吐き続けるなど。

③以上の症状が1つでも見られた場合はすぐにエピペンを使用する

エピペンを使用して15分経過して症状の改善が見られない場合はもう1度エピペンを使用する。
また、エピペンの使用と同時に救急車も要請する。エピペンがない場合は内服薬を服用して安静にし、必要であれば救急車の要請を行う。

- ◎アレルギー反応の場合も同様、即時に社内用の携帯を使用して連絡を入れてください。
アレルギー反応はその子(耐性)によって症状も異なりますが、②の症状が見られたら危険な状態なので、迷わず心肺蘇生を行ってください

心肺蘇生の方法

- ①肩などを叩きながら大きな声で呼びかける
 - ②何らかの反応がない
即時に119番通報を行う。可能であれば1人なので利用者の子にも援助を求め
代わりに119番通報をしてもらうか、近くの大人を呼んできてもらう(別テナントの人など)
 - ③呼吸の確認
胸と腹部の動きを見て普段通りの呼吸が取れているかで確認を行う。
 - ④正常な呼吸がない場合は即時に胸骨圧迫(心臓マッサージ)を行う
胸骨圧迫するところは胸の真ん中を目安に胸が5cm程度沈むほど強く、1分間あたり100~120回のテンポで救急車がくるまで続けましょう。他に大人が援助が来てくれた際は胸骨圧迫を交代しながら行いましょう
- ◎利用者が周りの大人を呼んでくれた場合は、その方に指示を出して下さい。
複数援助に来てくれた場合はAEDと119番通報をお願いする。1人のみ援助にきてくれた場合は119番通報をしてから、AEDを持ってきてもらって下さい。
*AEDは[中央公民館](#)、南小学校にあります。

- ⑤AEDが到着したらAEDを使用します
場合によってはAEDが電気ショックが必要ないと判断するときもあるので指示に従ってください。

AEDの使用方法

- ①電源を入れて電極パッドを装着する
電極パッドは胸と脇腹に貼りましょう。(右胸に貼ったら、左脇腹に貼る、反対も同様です)
- ②電気ショックボタンを押すので周りの人を遠ざけましょう
- ③周りの人がいなくなったら電気ボタンを押しましょう
- ④もう1度胸骨圧迫を続けましょう

◎AEDから基本的に指示が出るのでそちらに従って頂ければ大丈夫です。また、AEDはメーカーによって多少違いがありますが、基本的な操作方法は一緒ですので上記と違う場合もありますが、その場合もAEDの指示に従って頂ければ大丈夫です。

緊急対応マニュアル

(けが・病気発生時)

■ポイント

- ・安全確保、生命維持
- ・冷静で的確な判断
- ・適切な対処と迅速正確な連絡



■カラフルスクール住所
浦安市猫実5丁目18-1
岡田ビル2F

<Phase1>



発見者

- ・傷病者の症状の確認(意識・心拍・呼吸・出血など)
- ・応急手当
- ・他の指導員に協力要請、指示

<Phase2>



発見者

- 傷病者の主な対応
 - ・軽度のけがの場合
→応急手当及び経過観察
 - ・けいれんの場合
→詳細は裏面



指導員A

- 傷病者の安全確保
危険物の移動
- 連絡対応
 - 1.119番救急車の出動要請
 - 2.保護者への連絡
 - 3.救急車の誘導



指導員B

- 傷病者の安全確保
危険物の移動
- 他利用者の対応
 - ・人数の確認
 - ・配慮を要する子のケア

<Phase3>



発見者

- 救急搬送付き添い
 - ・救急隊への説明
 - ※親御様が同乗する場合は不要



指導員A



指導員B

- 活動再開
安全確認後、活動を再開

<Phase4>



責任者

- 情報の更新、共有
 - ・傷病者の情報を更新
 - ・当時の様子の共有と今後の対策
 - ※必要に応じて、マニュアルの更新



発見者
指導員A・B



指導員C~

【病院】

病院名	診療科	住所	電話番号
井上こどもクリニック	小児科	富士見2-9-1	047-350-8787
東京ベイ医療センター	総合	当代島3-4-32	047-351-3101
順天堂大学浦安病院	総合	富岡2-1-1	047-353-3111

■交通事故の対応■

送迎時に事故を起こした場合はの対処法です。

【1】緊急時の対応

A.交通事故発生時の対応（加害・被害ともに）

・人身事故の場合

- ①車両を速やかに安全な場所に停車する
*同乗者が車外に出ないようにロックをしておく
- ②事故の状況を確認する（負傷はの有無）
- ③周囲の歩行者などに協力・応援を要請する
（119番、カラフルへの連絡、交通整理、道路上の危険物の除去など）
- ④負傷者の救急処置を行う
- ⑤救急車の出動要請（119番通報）
一見外傷がなくても後遺障害が発生する場合もあるので
事故直後でなくとも原則として登場者全員が受診すること
- ⑥安全確保ができれば警察へ通報（110番通報）
- ⑦カラフルへ連絡
- ⑧相手がある場合は相手方の確認（氏名・住所・勤務先など）
- ⑨事故の経過をメモする
- ⑩保険会社へ連絡（代表が対応）

・軽微な物損事故の場合

- ①車両を速やかに安全な場所に停車する
*同乗者が車外に出ないようにロックをしておく
- ②事故の状況を確認する（負傷はの有無）
- ③周囲の歩行者などに協力・応援を要請する
（119番、カラフルへの連絡、交通整理、道路上の危険物の除去など）
- ④安全確保ができれば警察へ通報（110番通報）
- ⑤カラフルへ連絡
- ⑥相手がある場合は相手方の確認（氏名・住所・勤務先など）
- ⑦事故の経過をメモする
- ⑧保険会社へ連絡（代表が対応）
- ⑨上司の指示により帰社する

B.搭乗者の急変時の対応

・緊急性があると判断される場合

- ①車両を速やかに安全な場所に停車する
*同乗者が車外に出ないようにロックをしておく
- ②急変者の心身の状況を把握する（意識混沌・呼吸停止・出血の有無など）
- ③周囲の歩行者などに協力・応援を要請する
（119番、カラフルへの連絡、交通整理、道路上の危険物の除去など）
- ④急変者の救急処置を行う（気道確保・心肺蘇生法の実施など）
- ⑤救急車の出動要請（119番通報）
- ⑥カラフルへ応援要請
- ⑧カラフルからスタッフが到着が間に合えば、救急車へ同乗
- ⑨他の同乗者の安全を確保する（原則として車外へ出さない）

・時間的余裕があると判断される場合

①車両を速やかに安全な場所に停車する

*同乗者が車外に出ないようにロックをしておく

②急変者の心身の状況を把握する（意識混沌・呼吸停止・出血の有無など）

③周囲の歩行者などに協力・応援を要請する

（119番、カラフルへの連絡、交通整理、道路上の危険物の除去など）

④急変者の介護

⑥必要に応じてカラフルへ応援要請

⑧必要に応じて医療機関へ搬送、またはご自宅へ送迎